

**平成30年度**

**小学校管楽器活動実践事例集（第19集）**



**東海北陸小学校管楽器教育研究会**

## ♪ 目 次 ♪

♪ <u>あいさつ</u>	・・・	1
♪ 各地区の実践		
◇ <u>管楽器や打楽器を効果的に活用した音楽の授業の提案</u>		
愛知県大府市立大東小学校	教諭 市江 真理子	・・・ 2
◇ <u>みんなで楽しく音を奏でよう</u>		
ー小規模校における全校合唱奏への取り組みー		
愛知県田原市立東部中学校	教諭 内藤 利江子	・・・ 8
(H29 田原市立亀山小学校)		
◇ <u>音楽を楽しむ児童の育成</u>		
ー金管バンド部の活動を通してー		
愛知県蟹江町立新蟹江小学校	教諭 岡本 裕嗣	・・・ 10
◇ <u>「地域になくってはならない金管バンドを」掲げて16年</u>		
三重県松阪市 松阪ハーモニックジュニアバンド		
	小島 誠伺	・・・ 12
◇ <u>富山県の小管研の活動について</u>		
富山市立水橋東部小学校	校長 川添 等	・・・ 14
◇ <u>音楽を愛好し仲間とともに成長する児童の育成</u>		
福井県鯖江市神明小学校	教諭 根谷 理砂	・・・ 16
♪ <u>あとがき</u>	・・・	18



## ごあいさつ

東海北陸小学校管楽器教育研究会

会 長 亀島 真治

(愛知県高浜市立翼小学校長)

全国中心の全国大会の皆さま方におかれましては、日ごろより管楽器活動にお力添えをいただき、ありがとうございます。

さて、平成30年度小学校管楽器活動実践事例集(第19集)が完成し、今年度もこうして発刊することができました。これも東海北陸小学校管楽器教育研究会の皆さまのご理解ご協力のおかげと感謝しております。ありがとうございます。

実践事例集発刊の目的には「管楽器を活用した実践事例を通して、会員の資質の向上と管楽器教育活動の発展に寄与する」とあります。管楽器教育活動は、音楽の授業の中で、また課外活動など様々な場面での実践が考えられます。大切なことは、子どもたちが管楽器をより身近に感じ、親しみをもち、興味関心を深めることであると思います。そして、音楽の楽しさを子どもたちが実感し、活動の輪をいっそう広げていってくださることを願うものです。

近年、学校における働き方改革の議論の中で、部活動の大胆な見直しが検討されています。今後限られた時間の中で子どもの主体性を引き出し、技能を高めていくことがこれまで以上に必要となってくることは間違いありません。本実践事例集に収められている内容が、きっとそのような課題に向けての大きなヒントとなることと確信しています。ぜひ、参考にしていただけたらと思います。

なお、今年度「音楽の楽しさを子どもたちの心に」～人と音楽をつなぐ・つながる・つなげる～を研究テーマとして、全日本の研究大会を東海北陸地区が受けもち、愛知県で開催しました。その大会のなかで、管楽器を活用した「鑑賞」と「音楽づくり」の授業公開をしました。どちらも、演奏家の外部指導者を有効に活用した授業が展開され、今後の管楽器教育におけるひとつの方向性を示すことができたと自負しております。また、同じ会場にて「全国小学校管楽器合奏フェスティバル東海北陸大会」を開催し、大変多くの方にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

最後になりましたが、ご執筆をいただきました先生方をはじめ、関係各位の皆さま方には大変お世話になりました。今後とも、本研究会への温かいご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 管楽器や打楽器を効果的に活用した音楽の授業の提案

愛知県大府市立大東小学校

教諭 市江真理子

## 1 はじめに

さまざまなジャンルの音楽を手軽に聴くことができる現代において、子どもたちは、自分の興味・関心に合った音楽を自ら選んで触れることができる。しかし、デジタル音楽に関わるが増えた半面、生の楽器の音色のよさや、音楽を通した人と人との関わりのよさを味わう機会は減ってきていると感じる。そこで、生の楽器の音色に実際に触れながら仲間とともに音楽活動をすることによってそれらを味わわせることができると考え、「管楽器や打楽器を効果的に活用した音楽の授業」を提案する。

## 2 授業実践の視点

音楽を通した人と人との関わりのよさ、音楽のそのもののよさを味わわせるために、以下の視点を意識した授業実践を行った。

### ① アウトリーチ事業

子どもがプロの演奏を間近で聴き、演奏者の息づかいや表情等を感じ取りながら、音の振動を体全体で体感することで、音楽のすばらしさを味わわせる。

### ② 鑑賞活動での活用

I C T機器を活用するだけでなく、実際の楽器そのものの音色を体感させることで、その魅力に気付かせ、より深く聴く楽しさを味わわせる。

### ③ 音楽づくりでの活用

情景や物語のイメージに合った音や音楽を、さまざまな楽器を活用して創作させることで、仲間とともに自分たちの音楽をつくり上げる喜びを味わわせる。

また、授業の最初に本物の音楽と出会わせることで「この曲を演奏してみたい」「もっと聴いてみたい」「友達と合わせてみたい」という思いをもたせるようにした。

## 3 授業実践

授業者：東海市立三ツ池小学校 大録佳澄

### (1) 題材名

音の重なりとひびき

### (2) 題材を構想する上での留意点

楽器の音色や音が重なる響きに関心をもち、響き合いを生かして表現する学習に主体的に取り組もうとする姿勢を大切にする。また、間近で外部講師による演奏を聴き、管楽器アンサンブルの楽しさを感じ取ることができるようにする。曲のアレンジを話し合う際に、「～のような、～の感じ」と表現したいことを言葉で仲間や外部講師に伝えることができるように、普段の授業から「表現言葉」を使って発表できるようにしていく。

(3) 題材の目標

- ・音が重なる響きに関心をもち、響き合いを生かして表現する学習に主体的に取り組もうとする。
- ・音が重なる響きや調による曲想の変化を聴き取り、そのよさや美しさを感じ取りながら表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- ・リズム、速度、強弱、音の重なりなどの要素に気を付け、曲想を生かした表現で演奏することができる。
- ・旋律の繰り返しや速度の変化に気付き、曲全体の構成を理解して聴くことができる。

(4) 指導内容

創作 鑑賞

【共通事項】音の重なり、速度、強弱、リズム

(5) 学習の計画

	学 習 内 容		管楽器との関連
<b>第1次</b> <b>【つかむ】</b>	<b>「マルセリーノの歌」をいろいろな表現で合奏する</b>		
	第1時	① マルセリーノの歌を合奏する。 ② 演奏表現の工夫をする。	○ 伴奏や低音パートの音色や特色を理解させる。 ○ 音楽の縦と横の関係性について感じ取らせる。
	第2時	① クラスでアレンジしたマルセリーノの歌を演奏する。 ② 実際に演奏してみた感想を話し合う。	○ 1つの曲にみんなで心を合わせて演奏する楽しさを感じ取らせる。 ○ 友達の出す音色を意識させる。 ○ 既習の管・打楽器について想起させる。
	<b>ねらう児童の姿</b> 楽器の組み合わせや、音の重なり、速度、強弱、リズムの変化を感じ取り、表現の工夫への意欲を高めている。		
<b>第2次</b> <b>【つくる】</b>	<b>「マルセリーノの歌」の旋律で4つの画像のイメージソングをつくる</b>		
	第3時	① 4つの画像グループに分かれる。 ② 4枚の画像のイメージソング（基本形）を聴く。 ③ 音源に合わせて練習する。 ④ 楽器について調べる。	○ 楽器の音のすばらしさを感じ取らせるため、電子音によるなるべく平坦な表現にとどめたものを聴かせる。 ○ 演奏する管楽器について知る。 ○ 金管クラブの児童が各グループに入るように配慮する。 ○ 高音に華やかな音色をもつ楽器と低音に深みのある音色をもつ楽器を取り上げていく。

	第4時 (本時)	① 講師と基本のイメージソングを演奏する。 ② 講師を交えてグループで基本の楽譜を使い、さらに表現の工夫をしていく。 ③ 講師と一緒に工夫して練習を繰り返しながら曲を完成させる。 ④ グループ発表をする。	○グループごとに講師（管楽器・打楽器奏者）と演奏する。 ○講師に音を実際に出してもらいながら創作する。 ○楽器の特色にあったアレンジのアドバイスをいただく。 ○それぞれのグループの聴くポイントを提示させる。
<b>ねらう児童の姿</b> 講師と一緒に演奏しながら、生き生きと創作活動をしている。			
第3次 【聴く】	<b>題材のまとめと「ハンガリー舞曲第5番」を鑑賞する</b>		
	第5時	① 前時の発表の映像を見る。 ② 「ハンガリー舞曲第5番」を鑑賞する。	○作曲者の思いや意図を表現方法の工夫から探らせる。
<b>ねらう児童の姿</b> 第2次で学習して感じ取ったことを基に、楽器の音色を聴き取ったり曲想の変化を捉えたりしながら、曲全体の構成を理解して鑑賞することができる。			

(6) 本時の学習指導

○目標

- 4種類の画像のイメージソングを、リズム、速度、強弱、音の重なりなどの要素に気を付けながら、どのように演奏するのか思いや意図をもつことができる。
- 外部講師とアンサンブルの楽しさを味わいながら、曲想を生かした表現で演奏することができる。

○準備・資料

教師……4枚の画像、基本のイメージソング楽譜（ホワイトボード）、記号カード、楽器カード

児童……教科書、リコーダー、基本のイメージソング楽譜

○学習過程

段階	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項
つ な ぐ	<p>1 基本のイメージソングを合奏し、本時の活動を知る。</p> <p>(1) 講師とイメージソングを合奏する。</p> <p>(2) 感じたことをグループ内で発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迫力が違うな</li> <li>・おもしろい音色だな</li> <li>・演奏にびっくりした</li> <li>・金管楽器と木管楽器の音色が違う</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1分間の音出しタイムをとる。</li> <li>○講師と児童の交流を図らせる。</li> </ul>
	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までの学習内容の振り返りとして、児童から挙げられた、各画像に対する表現言葉を、画像に貼り付けておく。</li> <li>○画像の貼られた譜面台を、グループの看板として用意する。</li> <li>○講師の楽器を観察できるようにする。</li> <li>○グループ内で、演奏後の感想をお互いに発表させる。</li> </ul>	
つ な が る	<p>2 本時の学習課題をつかむ。</p>		
	<p>音の重なり、速度、強弱、リズムを工夫して楽しくイメージソングを響き合わせよう。</p> <p>3 創作活動をする。</p> <p>(1) 活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作活動の手順を理解する。</li> </ul> <p>① ホワイトボード楽譜にカードを使って創作タイム（5分）</p> <p>② 音を出しながら相談・練習タイム（10分）</p> <p>③ 発表（各グループ3分）</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>○金管クラブの児童も管楽器演奏で参加させる。</li> <li>○各グループにつき1つ（音の重なり、速度、強弱、リズム）の「音楽の要素」で創作させる。</li> <li>○創作手順を示す。</li> <li>○グループリーダーに音楽記号カード付きホワイトボードを渡す。</li> <li>○音の重なりを工夫するグループについては、準備しておいた打楽器の中から使う楽器を選ばせる。</li> <li>○速度を工夫するグループには、メトロノームを渡す。</li> </ul>

つ な が る	<p>(2) 講師と一緒に、基本の楽譜に表現で工夫することを加えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱記号をつけてみよう</li> <li>・リズムを変えてみよう</li> <li>・こんな表現ができるんだ</li> <li>・近くで楽器の音色を聴くと迫力がある</li> <li>・奏法を観察する</li> <li>・工夫した点を試しに演奏しながら創作する</li> <li>・工夫した点を発表できるように自分の楽譜にメモする</li> </ul>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループごとに、ホワイトボードの楽譜にカード（記号や楽器）を貼り付けながら、創作させる。</li> <li>○話し合う際に必要な音は、キーボードで演奏しながら創作させる。</li> <li>○実際に音に出して試し、気付いた点を変更していくよう声がけする。</li> <li>○いろいろな音が混在してしまうので、音出しの時間を区切る。</li> </ul> <p><b>評</b>楽器の音色や重なる響きを感じ取りながら、音楽の要素を生かして表現を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">（活動の様子・楽譜・発言）</p>
	<p>(3) 発表に向けて、アンサンブルを楽しみながら練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の重なりを感じ取りながら、よく聴き合って演奏する。</li> <li>・イメージした音色がするかな</li> <li>・発表するのが楽しみだな</li> <li>・グループのアピールポイントを1つ、話し合ってみよう。</li> </ul>	33	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各パートの音量のバランスにも気を付けさせる。</li> <li>○グループで工夫したところを意識させながら、講師と楽しく練習させる。</li> <li>○教師が、基本のイメージソングからの変更箇所を、別グループ担当の講師に伝える。</li> </ul>
つ な げ る	<p>4 グループ発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いてほしいところを発表する。</li> <li>・グループで思い描いた音楽が実際にはどんなふうになるのかな</li> <li>・自分たちの表現の工夫が伝わるという</li> </ul>	45	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1グループ3分で発表する。</li> <li>○グループごとの工夫が書かれている楽譜を映し出して、共有させる。</li> </ul> <p><b>評</b>音の重なりを感じ取りながら、曲想を生かした表現で合奏している。（発表）</p>

○本時の評価規準

- 音が重なる響きを聴き取り、よさや美しさを感じ取りながら音楽の要素を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分なりの思いや意図をもっている。

（活動の様子・楽譜・発言）

- 互いのパートを聴き合い、工夫したことを生かして「マルセリーノの歌」を演奏している。

（発表）

## (7) 授業の実際

基本のイメージソングを合奏し本時の活動を知る活動では、講師とともに演奏することによって、「演奏に迫力が出了」「楽器の音がよく聴こえて気持ちよかった」などの感想が伝えられていた。演奏の後に課題をつかんだことにより、自分たちの演奏をよりよいものに工夫していこうという意欲につながっていた。創作活動では、ホワイトボードの楽譜に記号や楽器のカードを貼り付けながら、グループの友達や講師と話し合いながら、イメージに合うようにするためにはどうしたらよいかを考えていた。実際に音を出して試しながら演奏の仕方を工夫していたが、音の出し方や拍の取り方については、講師のアドバイスが効果的に働いていた。限られた時間の中で、全てのグループがイメージに合った工夫を決めて合奏することができるようになった。グループ発表では、それぞれのグループの演奏が工夫する前の演奏から変化したことにより聴いている児童が気付き、演奏後には大きな拍手があがった。また、演奏した児童は満足した表情をし、「イメージに合った演奏ができてうれしい」などの感想が聞かれた。



【講師を交えてグループで話し合う様子】



【工夫した演奏の発表】

## 4 成果と課題

間近で外部講師と一緒に演奏することによって、それぞれの楽器のもつ音色の特徴を感じ取り、音楽のすばらしさを味わうことができた。グループで統一したイメージをもち、与えられたキーワードを手掛かりにしながら演奏の仕方を工夫していくことで、人と人との関わりの中で音楽をつくり上げていく喜びを感じ取ることができた。また、授業の最初に外部講師による演奏を聴くことにより、表現豊かに演奏したいという意欲をもって本活動に入ることができ、単元を通してその意欲を保つことができた。このように、外部講師とともに活動することはさまざまな面において大変効果的であるが、通常の授業の中で場の設定をすることについては課題が残る。

## 5 おわりに

本物の音に触れることのできる場を設定することで、子どもたちが楽器や楽曲のよさを実感できる。デジタルのよさ、アナログのよさ、音楽にもそれぞれのよさがあるが、体験してみないと比べようもなく実感することも難しい。教育に携わる者が意識してその機会を与えることで、子どもたちの感性が磨かれると信じて、今後の指導の在り方を考えていきたい。

## みんなで楽しく音を奏でよう ～小規模学校における全校合唱奏への取り組み～

愛知県田原市立東部中学校

教諭 内藤 利江子

(H29 田原市立亀山小学校 在)

### 1 はじめに

亀山小学校は、愛知県にある渥美半島の最西端に位置しており、周りをキャベツ畑に囲まれた自然豊かな学校である。全校児童は53名で、田原市の中で最も児童数が少ない。そのため、休み時間になると他学年の児童と一緒に遊んだり、全校児童と一緒に遊んだりすることがある。また、行事などで交流することも多く、全員がお互いを知っている環境である。

部活動は、音楽部・運動部があるが、どちらにも4～6年生児童全員が参加している。そのため、普段は両方の部活を時間で区切って活動しているため、各部活の練習時間は少ない。しかし、どの子どもも意欲的に活動している。

### 2 全校合唱奏への取り組み

全校合唱奏を取り組むにあたり、2つのことを意識した。1つ目は、全校児童が一緒になって1つの曲を演奏することで、小規模校のよさが発揮でき、子どもたちにとってよい経験になることである。2つ目は、低学年に発展的な発表の場を提供できることである。1年生の身体活動、2年生の鍵盤ハーモニカ、3年生のリコーダーの学習を、多くの人に見てもらえる場を設けることは、子どもたちの意欲の向上につながると考えている。

活動にあたり、全校合唱奏のパートを、音楽部である4～6年生(26名)は金管バンド、3年生(15名)はリコーダー、2年生(7名)は鍵盤ハーモニカ、1年生(5名)はダンスやパーカッション、鍵盤ハーモニカを担当することにした。

### 3 活動の実際

#### (1) 音楽部(金管バンド)の活動

4月から顧問が変わったこともあり、音楽部として、息の吐き方、B durの音階、ハーモニーを中心に基礎練習を行った。始めは顧問と子どもたちの足並みがそろわず、空回りすることも多かった。しかし、練習が軌道に乗りだすと、少しずつ音色に変化がでてきた。以前に比べると澄んだ音が響くようになり、ハーモニーにもあつみがでてきた。

運動部のみの練習期間が終わり、9月に行われる運動会の曲の練習になると、6年生が中心となり、音取りやパート練習を行った。夏休みには、ドリルの練習が加わり、動きながら吹くことを少しずつできるようにしていった。一方で、6年生にはファンファーレを8名全員(ドラムメジャーを含む)で行うことを伝え、少ない人数でもより遠くに音が響き渡るように練習していった。

運動会が終わると、次は音楽会に向け練習が始まった。短い練習時間のため、計画をたて、いつまでにどこまでの演奏ができるようにしなければいけないのかを掲示し、子どもたちの自主性を促した。希望者にはパート音源を配付したり、楽器を持ち帰って練習することを許可したりした。6年生を中心に積極的に練習に取り組み、メロディーもどンドン吹けるようになっていった。

#### (2) 低学年(1、2、3年)との連携

音楽部で指導する高学年とは違い、低学年は音楽の授業の中で担任が指導した。そのため、音楽主任との連絡を密にとるようにした。幸い、音楽部顧問の中に低学年の担任がいたため、低学年指導のリーダーを任せ、練習に取り組んだ。まずは、音楽部で提示した計画に合わせ、低学年でも「いつまでに、どこまで演奏できるようにするのか」を確認した。そして、各学年で練習をした後、低学年の合同音楽の時間を設け、高学年との合奏の前に、自分たちで合わせるようにした。そうすることで、低学年の子どもたちの不安が減り、スムーズに全校練習を行うことができた。また、低学年の合同音楽で課題や疑問が挙がることで、全校練習の前に顧問同士で話し合うことができたのもよかったといえる。

### (3) 外部講師との連携

外部講師を依頼することで、児童や教職員の技能や指導力を高めたいと考えた。そこで、普段学校へ出入している楽器店の担当者にも協力を頂いた。

年間を通して、5名の講師の先生にご指導頂いた。4月に基礎練習の講師として、4年生を中心に指導して頂いた。床に仰向けに寝転び、腹式呼吸の仕方を学んでいくことで、少しずつ息の使い方を意識するようになった。また、ハーモニー練習の楽譜を作成してもらい、小学生でも音を重ねる意識をもてるようにしてもらった。2人目の講師の先生には、定期的に金管および全校合奏の指導をしていただいた。音の強弱の意識の仕方やリズムの取り方など基本的なことから、合奏での音のまとめ方まで全体を通して教えて頂いた。パーカッションの講師の先生には、拍のとり方や叩き方を中心に指導してもらった。他にも、パフォーマンスや歌唱指導の先生方には、短い時間だったが、子どもたちの演奏が映えるようにしてもらったり、響きのある歌声になるように指導してもらったりした。

そして、編曲者の先生にもお忙しい中来校してもらい、話し合いながら納得する曲に仕上げていった。曲のコンセプトとして、学年ごと主役の場があること、最後の演奏会となる6年生の活躍の場を増やすことを挙げたことで、全体の技能が高まっていった。

### (4) 全校練習を通して

3学期に入ると、週に1時間全校による合同音楽の時間を設けた。体育館に舞台の大きさやひな壇の位置をラインテープで引き、位置を確認しながら練習した。高学年は低学年に見られている意識をもつことで、いつも以上に頑張り、低学年は高学年の演奏を聴きながら、楽しく合奏できるようになった。6年生は、最初のアカペラや他学年が歌唱している時の伴奏といったように、他の学年よりも負担が大きかったが、「さすが6年生」と言われるような演奏ができるようになっていった。



教員としては、「演奏を通す」「ダンスはできなくてもよいから、移動の動きはできるようにしておく」「全てをきちんと通す」といったようにその日の練習目標を予め提示し、共通意識をもち練習にのぞんだ。そのため、無駄を省き、より集中して練習することができた。

### (5) 発表の様子

2月初め、田原市で行われた音楽会に出演した。全校で参加することが保護者や地域の方への宣伝となり、家族全員で聴きにきたり、子どもや孫が亀山小学校にいなくても足を運んでくださったりした地域の方もいた。子どもたちは緊張する中、一生懸命演奏することができた。その1週間後、「全国小学校管楽器合奏フェスティバル 東海北陸大会」に出演した。田原市よりも大きい舞台に最初は子どもたちも戸惑っていたが、音楽会よりも伸びやかに演奏することができた。子どもたちも「上手にできたね」と言い合い、満足した様子だった。



## 4 終わりに

1年の活動を通して、学年を越えた活動をすることで、子どもたちの成長が見られた。全校合唱奏では、小規模校のよさをアピールしたり、低学年の音楽の発表の場にしたりすることができた。また、ともに音楽することで、低学年の子どもたちの音に対する感覚がよくなっていった。これは全校練習などで高学年の歌声や楽器の音色を聴いていることが要因だと考えられた。

時間数の問題や教職員の共通意識など、課題はたくさんある。しかし、子どもたちの生き生きとした表情は、音楽のすばらしさを実感しているからこそではないだろうか。これからも全校合唱奏を通して、本校の児童・教職員が生涯に渡り、音楽する喜びを感じ取り、みんなで楽しみながら音を奏でる気持ちをもち続けていけることを願っている。

# 音楽を楽しむ児童の育成

－金管バンド部の活動を通して－

愛知県蟹江町立新蟹江小学校

教諭 岡本 裕嗣

## 1 はじめに

蟹江町は、愛知県の西部の海部地区にあり、水郷の町といわれているように、蟹江川や日光川、善田川など多くの川が流れている。本校は、創立130年を超える伝統のある学校であり、児童数約300名、16学級の中規模校である。校区の南側は水田稲作を中心とした農村地域、北側は近鉄名古屋本線や国道一号線が通り市街地化の進んだ地域となっている。

部活動は、陸上部やサッカー部、バスケットボール部、駅伝部、自転車部が活動を行っている。金管バンド部は、年間を通して活動を行っており、4年生から6年生まで、男子児童3名、女子児童26名の合計29名で構成されている。

## 2 活動の実際

### (1) 年間計画

活動月	主な活動内容
4月	昨年度より継続参加児童（5・6年生）練習開始
5月	陸上部壮行会（本校伝統の部活動応援歌を演奏） 新入部員募集（4～6年生）、担当楽器決め
6月	基礎練習・曲作り（今年度の運動会で演奏する曲） 管楽器講習会参加
7月	マーチング練習開始 マーチング講習会参加
8月	ドリル演奏練習
9月	校内運動会にてドリル演奏
10月	アンサンブルコンテストに向けて練習開始 サッカー部・バスケ部壮行会
11月	アンサンブルコンテスト メンバーオーディション
12月	アンサンブル講習会参加
1月	アマアンサンブルコンテスト 参加
2月	楽器・音楽室の後片付け 部活期間終了

例年、平日は火曜日～金曜日の授業後に30分程度練習を行ってきた。今年度は、4・5月と10月～12月の期間は授業後の練習を行わず、2時間目の休み時間と昼の休み時間に練習を行った。

## (2) 活動の様子

### ○校内運動会（9月24日）

運動会では、毎年ドリル演奏を披露している。例年、前年度のアンサンブルコンテストで演奏した曲にコンテをつけて演奏している。そのため、卒業生も多く来場し、後輩たちを応援してくれている。5月の陸上部壮行会後から練習をしてきているので、本番前も楽しそうに音出しをしたり動きの確認をしたりして、リラックスした様子だった。

本番は、昼食後のプログラム1番。前には来賓や保護者、後ろには全校児童がいる中、楽しそうに2曲の演奏を行った。



【運動会でのドリル演奏】

### ○アマアンサンブルコンテスト（平成29年度1月28日）

運動会が終わるとすぐに、新しい2曲の楽譜を配付し、アンサンブルコンテストに向けた練習が始まる。本校は例年、10人1編成を2チーム作り、コンテストに出場している。児童は、オーディションに向けて個人練習を行うが上級生は自分の練習に加え、下級生の様子も気にしながら練習を行っている。

メンバー決定後は、A・B・Cの3チームに分かれ、A・Bチームはコンテストに向けて、Cチームは次年度の運動会に向けて2曲の練習を進めていく。



【アマアンサンブルコンテストの様子】

## 3 おわりに

例年、夏休み練習を中心に、十分な練習時間を確保することができていた。本年度は、一部の期間で午後の練習を行わず休み時間に練習を行ってきたが、児童にとって負担が大きかったように感じた。前年度アンサンブルコンテストで使用した曲を次年度の運動会で使用することについては良い面・悪い面あるが、練習時間が減ってきていることやコンテストに出ることができない児童のやる気を高めていくためには良い手段ではないかと考えている。

部活動の縮小で本校の金管バンド部は本年度で廃部となる。今年度まで金管バンド部として音楽の楽しさを感じ、全校へ伝えてきた児童は多い。今後、学校教育の中に管楽器がどう位置づけられていくのか、音楽の楽しみ方についてどういう方向でいくのか検討していきたい。

## 『地域になくなくてはならない金管バンドを』掲げて16年

三重県松阪市 松阪ハーモニックジュニアバンド

指導者代表 小島 誠伺

### 1. いま思っていること

松阪市内の小学校で唯一スクールバンドとして最後まで活動していたバンドがあり、「4月からは指導者がいないからできない。」と告げられたのが3月末でありました。4月からも活動したいと残った子どもたちが「続けてやりたい」と声を上げ、その必死な声を聞き保護者がいろいろな方面に働きかけて条件を整えて、保護者が主体に運営していく社会教育団体として進める覚悟を決め立ち上げました。

それが、松阪ハーモニックジュニアバンドが出来たきっかけでした。

始めは1つの学校の児童だけでしたが、仲間は多いと楽しいということで、現在では、市内の6校の児童が集まってきています。門戸広げてすべてやりたい気持ちをもつ子どもを仲間に入れてくれています。保護者会も頻繁に開き意思疎通もスムーズにされています。しかも、全員積極的に活動を支えています。

卒団していく子どもが中学校も3, 4校に分かれますが高校になると、それぞれの高校の吹奏楽部で「また、一緒になったね。」と小学生の時の友達と楽しくレベルアップした音楽活動しているのを、ほほえましく見守っています。

今、国中で働き方改革が叫ばれています。学校における働き方改革の議論の中で部活動の見直しが検討され、もうすでに実施されているようです。一昨日の県のアンサンブルコンクールで私が携わっていた同じ係の中学校の先生が、授業が4時に終わり、「さあ、クラブだ」と生徒も、顧問の先生も練習を始めても「4時30分になったら生徒を下校させなさい。」とのことでした。

限られた時間内で、効果的な練習や子ども同士の心のつながりをどうしていけばいいのか指導を続ける者が子どもたちと話し合っただけで納得し自分なりの方法を見い出していかなければならないのではないかと考えます。

この実践事例集は、全日本小学校管楽器教育研究会でも東海北陸ブロックが広域のブロックとして指導者としてお互いがどんな実践して子ども達が、管楽器に親しみ、音楽の楽しさを仲間と感じているかを交流するツールとして続けてきたものと認識しております。他のブロックにはない宝物だと誇りに思います。今年も、事務局長様中心にお世話いただいて各県からの原稿を整理し発刊されます。日常の校務に重ねてバンド指導を行いつつ、この編集・発刊の作業にご苦労されています。感謝しブロック内の益々の実践に生かしたいものです。

● 全日小管研企画委員が浜松のJAPAN BAND CLINIC 第50回小学校のスクールバンドで役立つ講座を毎年企画しています。是非ご参加を！

## 2. 16年目の新たな実践とその後の方向

その年の実践の中に新しい取り組みを入れながら 2.3 年先を見越しての実践を、保護者とともに共有し歩むことを大切にしたいと考えています。

### ○2018年の新たな取り組み

音楽は 人と人を繋ぐ力があるそれをプレーヤーの演奏水準の差があっても音だけでなく、他の要素によって訴えられると思います。

4月に原発事故で被災した福島の子どもたちに、松阪の波瀬の緑豊かな飯高地域での3泊4日のキャンプでの交流を波瀬むらづくり協議会の方が計画されました。そこでウェルカムコンサートとその後の3日のいろいろな企画がある交流を依頼されました。

子ども達や保護者に相談し参加決定し、すぐハーモニックだけでなく、演奏を地域2校の子どもトランペットクラブと飯南高校の吹奏楽部に依頼し、歓迎する曲の選定などを話し合い取り組みました。

「たくさんの思い出を作ろう」と子ども同士や地区住民との豊かな交流となりました。この場で〈未来に響け〉三重とこわか国体・大会テーマ曲を演奏しました。

### ○2019年以後の取り組み

例年活動している、松阪市企画のお祭りのオープニング演奏、老人介護施設、障がい者施設、幼稚園・小学校などでの演奏会、地元演奏会への出演コンクールへの出場、16回目の定期演奏会(高校・中学校・地域一般演奏団体との共演)など年間地域からの要請に土曜日、日曜日に出向いています。

音楽が好きな子供たちも、日常は学習塾、スイミング、レスリング、英会話、ピアノ教室など多忙な生活を送っています。出演要請も年々増えています。これからは、毎年要請がある施設などにも、お願いして2年に1回にこだわるなどにしていかないと『楽しい』『喜んでもらえる』とのことでは練習が追い付かない状況では地域で楽しみに待って見えるお客様に失礼になると考えています。

しかし、子どもの人生の中で、この年に輝かないとチャンスがないと思うことはやり遂げたいと思っています。県の吹奏楽連盟総会の場で、2021年三重とこわか国体・三重とこわか大会のテーマ曲が発表されました。この総会で3年後ことではあるが、小学生も各市町での競技会場での役割が生じると思い、「金管バンドでも演奏できる楽譜を作ってほしい」と要望し、早速作っていただきました。もう既に公の場で3回演奏しています。

●このような写真も無い、カットも無い、おそらく読んでもらえない紙面になってしまいました。日常の活動詳細については、HP【松阪ハーモニックジュニアバンド】SNS インスタなどにアクセスしてください。

## 富山県の小管研の活動について

富山市立水橋東部小学校  
校長 川添 等

### 1 はじめに

富山県小学校管楽器教育研究会は昭和43年（1968年）に発足した。今年度でちょうど50周年を迎える。管楽器の演奏を通して、よりよい音楽に親しみ、心から音楽を愛好する子供の育成を目指すとともに、指導者の技術の向上を目指した研修会の実施や情報交換、資料紹介、他県との交流を行ってきた。発足当時、県内での管楽器保有校は10校程度だったが、子供たちの豊かな音楽性と情操を育む活動として認知されるに至り、多くの学校で取り入れられるようになっていった。10年後の1978年には77校とほぼ県内の小学校のほぼ1/3（当時）が管楽器を保有するに至った。その後、県内の東部地区と西部地区に分かれて活動を行っていた時期を経て、昭和62年からは再び県内が一つになって活動を行い現在に至っている。

会の発足翌年1969年に10校が参加して、第1回交歓演奏会（現在の小学校バンドフェスティバル）が富山市公会堂で開催された。その後、交歓演奏会は、昭和63年（1988年）参加校32校、参加人数1391名を数えるまでになっていった。その後、児童数の減少、学校の統廃合、指導者の世代交代、また、昨今の働き方改革による活動時間の縮減等から参加校、参加人数の漸減が続き、平成12年（2000年）には28校980名、平成22年度（2010年）には21校712名、平成29年度（2017年）16校478名、平成30年度は県内での他の行事と日程が重なったこともあるが、11校307名と過去最小の参加校・参加人数となった。

小管研への加盟も年々少なくなっており、今年度は14校である。この実践事例集にも過去15校17実践を紹介したが、そのうちの半数の団体が廃部もしくは研究会への不参加となっていることも寂しい限りである。

### 2 富山県小管の活動について

小管研では、前項の目的の元、いろいろな活動を行ってきた。今まで行ってきた活動は、指導者講習会、指導者懇談会、初心者奏法講習会、アンサンブルコンサート、ディレクターズバンド、合奏講習会、小学校バンドフェスティバル、スクールバンドパワーアップ派遣事業等である。その時々々の要請に応じて事業を企画・運営してきたが、現在、行っている事業について紹介する。

#### ①管打楽器奏法講習会

毎年5月に、初心者の子供を対象にした講習会で、楽器の扱い方から実際の練習方法まで、日頃の練習に役立つために、パートごとに講師がついて指導を行う。当初は木管楽器も受け入れていたが、受講者減少より現在は金管楽器と打楽器のみ講習を行っている。専門的な知識をもった教員、指導者がいないバンドからはとても好評な事業である。



#### ②指導者講習会

バンド指導者のレベルアップを目的にして、講師を招いてモデルバンドを使った指導を行っている。スクールバンドをモデルに行う実践指導は、なかなか専門的な指導者から指導を受ける機会のない教員らから好評である。講師を招かない年度は、役員の体験談を若い先生たちに伝え、指導方法や運営の悩み等に答える懇談会を行うこともあった。

### ③スクールバンドパワーアップ派遣事業

スクールバンドに県小管研から役員を派遣して、合奏指導やパート指導を行うことで、表現力の向上を目指し、バンドをより楽しむ子供を育てるという目的で5年前から始まった。年間5～10校程度から要請があり、夏休み等に、各校に1～2回出向いて指導を行っている。指導を受けたバンドは、バンドフェスティバル等の発表で、その演奏技能や表現力の向上等、指導の成果を感じ取ることができる。

### ④小学校バンドフェスティバル

県小管の中心的な行事で今年度で46回を数える。現在は富山市芸術文化ホール（オーバードホール）、富山県民会館が主な会場となっている。このフェスティバルでは、本県のスクールバンドが一堂に会して、日頃の練習の成果を発表し合う。多くのバンドがこのフェスティバルを目標に年間の練習に励んでいる。フェスティバルでは、お互いの演奏を聴き合ったり、4～5名の講師の先生方から各校の演奏について講評をいただいたりもしている。前述のように参加校、参加人数がかなり減ってきているのが課題である。



## 3 今後の課題

児童数の減少や指導者の世代交代、学校行事のスリム化、運営費の調達等、これからのスクールバンド活動が持続可能なものであるためには乗り越えなければならない壁がいくつも存在する。そうした壁を乗り越えた例や乗り越えるヒントになる事例があるので紹介したい。

**児童数の減少**については、本県では「婦中っ子バンド」という学校単位にこだわらず、地域の複数の小学校の子供たちが合同で活動を行っているバンドがある。また、楽器演奏経験のある保護者や卒業したOBやOGとともに活動している学校もある。こうした今までの枠にとらわれない団体構成の在り方も必要になってくるであろう。

**指導者の世代交代**については、楽器の演奏指導という特別な技能が必要なため、誰にでもできるというわけではないので、指導面については楽器の経験のある保護者や地域の方に全面的に委ねている学校もある。そうした学校では、保護者が中心となった保護者会がバンドの運営の中心となっているため、教員に過度な負担を強いることはない。学校の担当教員は活動時間や活動場所、児童管理を中心に指導に当たっている。

**バンドフェスティバル**については、子供たちにも聴衆にも魅力ある発表会にすることが、参加校や参加人数を減らしていかないために有効であると考えている。そのための方策として、子供たちの演奏ばかりでなく、今後は、ゲスト演奏者（例えば、県内には高校生によるレベルの高いオーケストラやバンドがたくさん存在する）を招いたり、ディレクターズバンドによる演奏をしたりすることも考えている。

管楽器のもつ豊かな響きと美しい音色は子供たちの感性を育むとともに、友達と一緒に活動することは、音楽の技能面を伸ばすばかりでなく、豊かな心も育てていく。こうした管打楽器による音楽活動を通して子供たちの豊かな成長を願うばかりであるが、これからのスクールバンドを取り巻く環境は決して明るいとは言えない現状ではある。富山県小学校管楽器教育研究会が、子供たちの演奏技術や指導者の指導力向上の一助となることを願っている。

## 音楽を愛好し仲間とともに成長する児童の育成

福井県鯖江市神明小学校

教諭 根谷 理砂

### 1 はじめに

本校は鯖江市中心部にあり、福武線沿線の神明駅や水落駅周辺に校区が広がる全校児童632名の市内で一番の大規模校である。小学校の部活動は原則行われてないが、市内で3小学校が吹奏楽部での活動を行っている。本校吹奏楽部は、今年度3年生11名、4年生14名、5年生14名、6年生6名の計45名で活動している。

楽器体験会の様子

### 2 活動について

#### (1) 楽器体験会

4月始めに「楽器体験会」と称して、楽器に親しむ活動をしている。昼休みに誰でも体験できるとたくさんの児童が参加する。そこで興味をもった児童は、部活動見学を経て入部する。体験会は原則児童がすすめ、児童同士の関わり合いの中から楽器演奏に興味をもち音楽を楽しむ雰囲気ができている。さらに興味のある児童は「部活動体験」で入部を自己決定する。こうして毎年十数名が仲間に加わっている。



#### (2) 入学式・卒業式

毎年、入学式には新入生退場、卒業式には卒業生退場の場面で演奏している。6年生がいないので部員が少ないこともあり、その年のレパートリーの中から無理なくできて場にふさわしい曲を選曲し式典が盛り上がるように練習し本番に備えている。

#### (3) 市内3小合同練習会

1学期には、丹南地区吹奏楽連盟や市が主催する行事に3小学校合同バンドとして出演している。本番前には2回ほど練習会を開いている。他校との仲間づくりができたり、よりよい音楽表現をみんなと考えたりしながら演奏できるよい機会である。新人児童にはダンスや打楽器演奏で参加してもらい、たくさんの仲間と演奏する喜びが味わえる活動である。

3小合同練習会



#### (4) 丹南地区吹奏楽祭

4月末には丹南地区吹奏楽祭に出演している。本年度も3小合同バンドとしてステージに立ち、元気いっぱいの演奏をすることができた。他にも中学生や高校生の合同バンド、また一般の楽団の演奏を聴くことができる。よりレベルの高い迫力ある生のサウンドを聴けるので、これからの活動にいい刺激を受けることができている。

丹南地区吹奏楽祭



#### (5) 吹奏楽ライブ in SABAE

眼鏡枠生産日本一である鯖江市の「めがねフェス」と同時開催で“吹奏楽のまち鯖江”をPRしているイベントである。このステージでは鯖江市出身の先輩がプロのアーティストとして賛助出演し、コラボ演奏を行う。プロの演奏者と演奏できる体験はとても貴重で、練習会ではいろいろなアドバイスをいただき演奏技術も向上している。



#### (6) 地区体育大会アトラクション演奏

神明地区の体育大会では、昼のアトラクションで演奏している。校庭の中心で演奏するという過酷な状況ではあるが、地域の方々に活動を知っていただけるよい機会と捉え親しまれる曲を中心に演奏し毎年あたたかい拍手をいただいている。



#### (7) 敬老会

これは公民館行事で毎年地域の保育所や幼稚園の発表と一緒に演奏している。9月にあるので、夏休みを中心に大きな曲にチャレンジしこのステージで披露している。今年は、「リバーダンス」を演奏した。また、新人さんも童謡をソロで演奏するという初ステージの日でもある。それぞれの児童が目標をもって成長できるステージの一つである。

#### (8) 学校公開「にこにこふれあい学級」

全校児童や保護者が集う日に校内発表をしている。約20分のステージで3曲を披露した。敬老会で演奏した「リバーダンス」もさらに磨きがかかり自分たちの表現をすることができた。部員にとっては校内での演奏披露は先生や友人などに聴いてもらえることとあって新鮮な緊張感で臨むことのできるステージだった。

#### (9) アンサンブルコンテストへの参加

地区大会、県大会、北陸大会へと先述の各行事とは違い、自分たちの演奏を試す場として児童たちはより真剣に臨んでいる。この時期には、専門の講師を迎えてレッスンも受けている。演奏が上達していくことや仲間との絆を深めていけることに喜びを感じながら成長している姿が見られる。

### 3 終わりに

本校では、このようにさまざまな行事があるので年間を通して平日の火～金の夕方、本番が近づく土曜日にも練習を行っている。限られた時間で効率よく練習を進めていくために部長をはじめパートリーダーとなる上級生が自主的に活動を進められるように配慮している。必要に応じてリーダー会議を行いそれぞれのパートで抱えている課題を共有し励まし合いながら活動を続けている。高学年になるとどの子にも自信がついてきて個々の持ち味が演奏で発揮されてくる。これからも上級生から下級生に音楽活動を通して「よい音色やよい行い」が伝わってくれることを願っている。

## 平成30年度 東海北陸小学校管楽器教育研究会 役員名簿

会 長	愛知県	亀島 真治	高浜市立翼小学校
副 会 長	愛知県	青木 香織	名古屋市立東丘小学校
	三重県	澁谷 憲一	松阪市立花岡小学校
	富山県	川添 等	富山市立水橋東部小学校
	石川県	渡邊加寿子	金沢市立不動寺小学校
	福井県	千嶋 京子	福井市立松本小学校
理 事	愛知県	村瀬 慶美	名古屋市立松原小学校
	三重県	山中 幾代	鈴鹿市立神戸小学校
	富山県	土井 和哉	富山市立萩浦小学校
	石川県	荒木 泰彦	金沢市立伏見台小学校
	福井県	青木 知代	大野市立乾側小学校
	三重県	黒田 耕輔	鈴鹿市立愛宕小学校
事務局長	愛知県	森下 久子	東浦町立卯ノ里小学校
会 計	愛知県	渡邊 琴巳	大府市立神田小学校
監 事	愛知県	秋山 優子	名古屋市立大高小学校
	三重県	小島 誠伺	松阪市子ども発達総合支援センター
	富山県	頼成 知秀	富山市立鶯坂小学校

あとがき

各地区の実践から、「仲間と管楽器を演奏する喜び」や「努力し続けることの大切さ」が伝わって参りました。美しいサウンドを追求する中で、子どもたちの仲間を思いやる気持ちや地域に愛着と誇りをもつ気持ちが育っているように感じます。さらに、管楽器活動を通して、音楽の輪が広がっていくことを願っております。

最後にご執筆いただきました先生方をはじめ、関係の先生方には心からお礼を申し上げます。また、ご一読いただきました会員の皆様からは、温かいご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月

東海北陸小学校管楽器教育研究会事務局長 森下 久子